



2026年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2025年8月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2026年3月期 第1四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

1. 2026年3月期 第1四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

第1四半期連結決算実績サマリー（前年同期比）

サマリー 前年同期比～減収減益

- ・建設用資機材の製造販売事業における大型スポット案件の剥落により売上高及び売上総利益が減少。
- ・研究開発部門の販管費増加により、営業利益以下も減益。

（百万円）

	2024年度 1Q	2025年度 1Q	前年同期比	
			増減	（増減率）
売上高	5,651	5,161	▲490	（▲8.7%）
売上総利益 （対売上高比）	1,473 （26.1%）	1,413 （27.4%）	▲60 （+1.3%）	（▲4.1%）
営業利益 （対売上高比）	▲19 （▲0.3%）	▲89 （▲1.7%）	▲70 （▲1.4%）	-
経常利益 （対売上高比）	▲15 （▲0.3%）	▲64 （▲1.3%）	▲49 （▲1.0%）	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益 （対売上高比）	▲33 （▲0.6%）	▲72 （▲1.4%）	▲38 （▲0.8%）	-

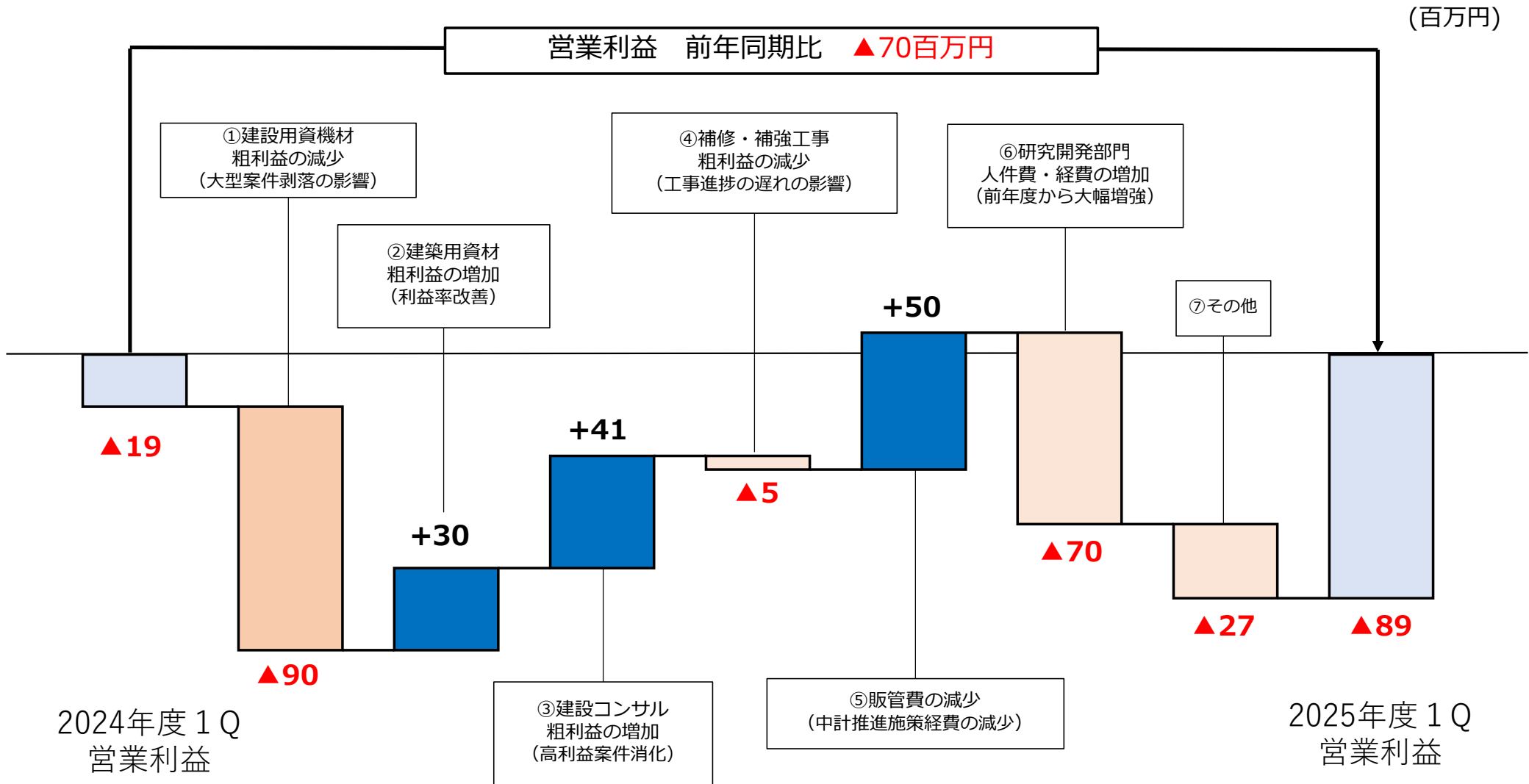
・売上高・売上総利益

- 建設用資機材の製造・販売事業において、前年同期にあった大型スポット案件が剥落。それに伴い売上総利益も減少。
- 建築用資材の製造・販売事業の利益率改善及び建設コンサルタント事業の増収・利益率の改善があったものの、上記減益をカバーするには至らず。
- 全体では売上高は前年同期比490百万円の減収、売上総利益は60百万円の減益。

・営業利益・経常利益・純利益

- 研究開発部門の人件費経費を戦略的に大幅増強したことに伴い減益、営業損失は拡大。

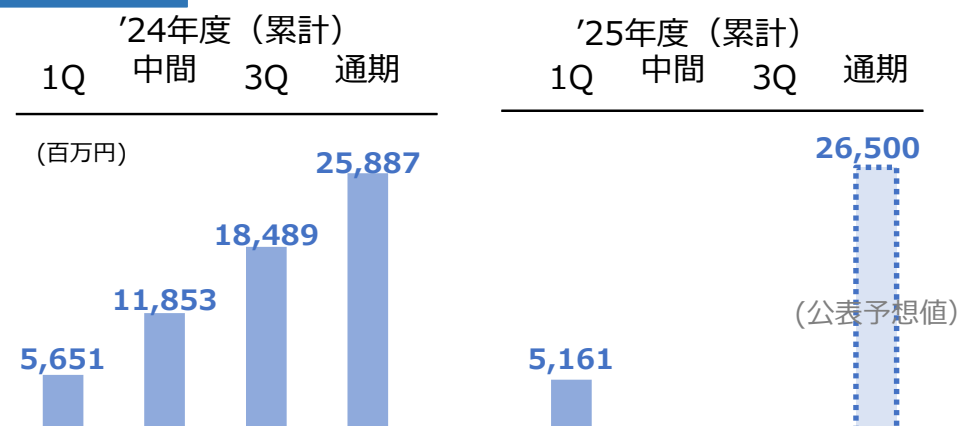
第 1 四半期連結決算実績サマリー（営業利益増減）



第1四半期連結決算実績サマリー（公表予想比）

サマリー 公表予想比～セグメント別では好不調はあるものの全体としては順調に進捗 現状では年間の公表予想に変更なし。

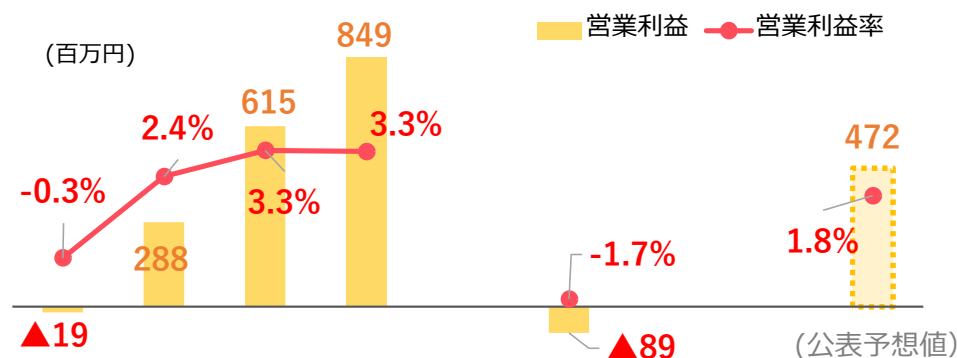
売上高



・売上高

- 建設用資機材の製造・販売事業で大型案件の端境期ではあるものの、公表予想値は増収を見込む。進捗率では前年同期比▲2.3%と若干低調な滑り出し。
- 建築用資材の製造・販売事業の進捗が不芳であるが、今後挽回が可能な範囲。

営業利益・営業利益率



・営業利益

- 公表予想値は、研究開発部門の人件費・経費の大幅増により前期比大きく減益予想。1Qは営業赤字なるも、前年度の2～4Qの積み上げ額から見れば公表予想値は現時点では十分達成可能。
- 今後は、売上総利益の積み上げ状況に加え、研究開発費の進捗状況がポイント。

連結貸借対照表サマリー

サマリー

親会社株主に帰属する四半期純損失・配当金の支払いにより純資産が減少。運転資本の減少、借入金の減少により、D/Eレシオはほぼ変わらず、自己資本比率は上昇。
(百万円)

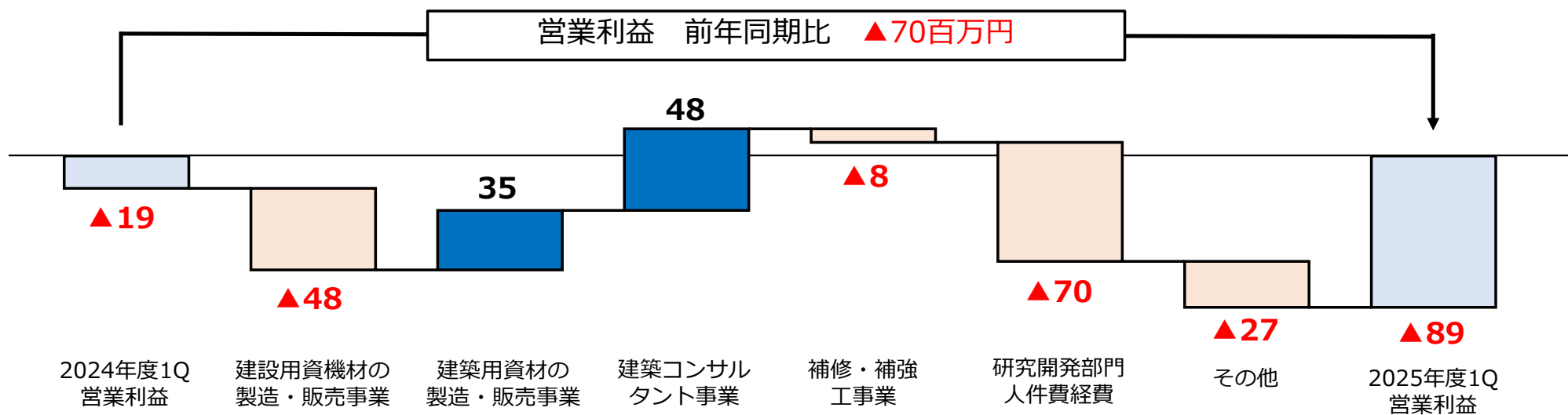
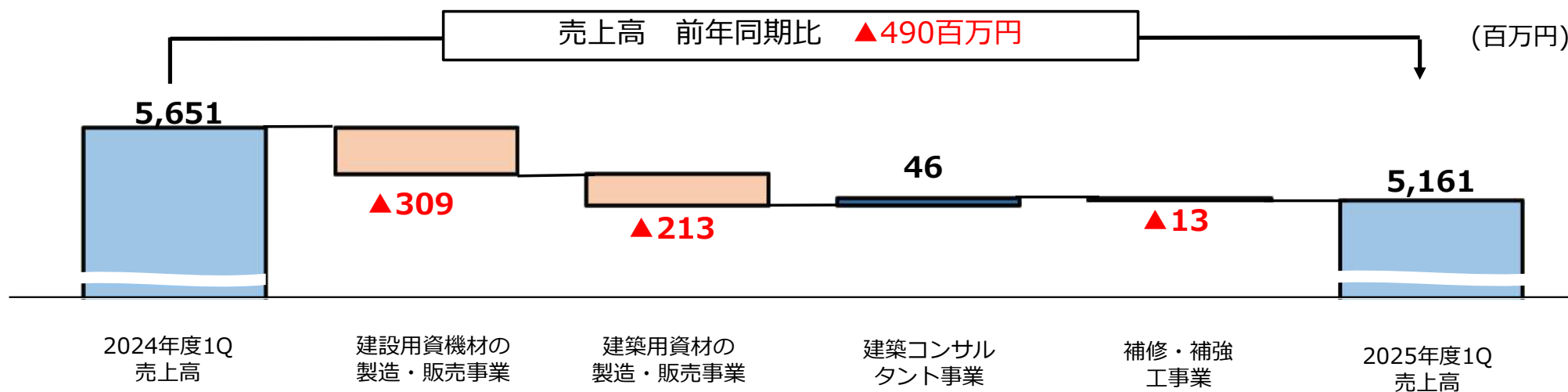
資産			負債		
2025年 3月末	2025年 6月末	増減	2025年 3月末	2025年 6月末	増減
25,470	23,796	(主な内訳)	14,248	13,037	(主な内訳)
		▲1,447 受取手形、売掛金及び契約資産			▲360 支払手形及び買掛金
		▲1,042 現金及び預金			▲357 借入金
		+349 棚卸資産			▲224 電子記録債務
		+308 電子記録債権			▲103 その他流動負債
		+153 建物及び構築物			▲ 83 未払法人税等
					▲1,211
			純資産		
			2025年 3月末	2025年 6月末	増減
			11,221	10,759	(主な内訳)
					▲392 株主配当金支払い
					▲72 親会社株主帰属四半期純利益
		▲1,674			▲462

	2025年3月末	2025年6月末	増減
運転資本 (百万円)	4,943	4,739	▲204
有利子負債 (百万円)	5,502	5,122	▲379
純資産 (百万円)	11,221	10,759	▲462
自己資本比率 (%)	44.0	45.1	+1.1
D/Eレシオ (倍)	0.49	0.48	▲0.01

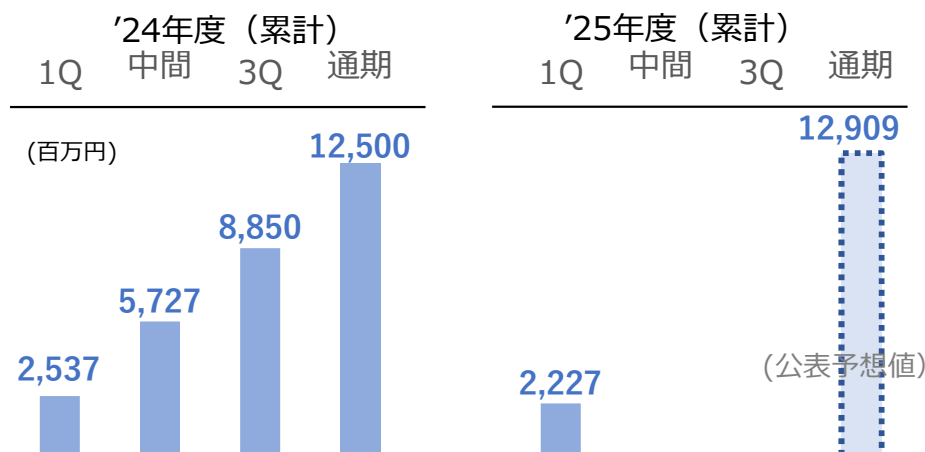
1. 2026年3月期 第1四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

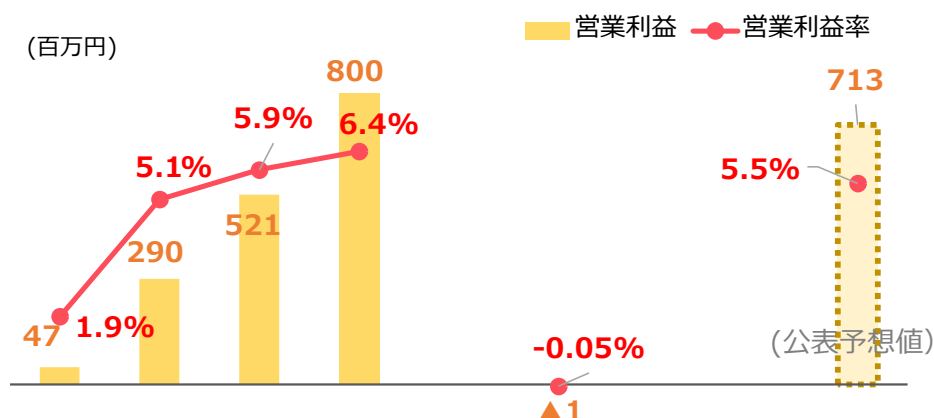
セグメント別増減（前年同期比）



売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高 (前年同期比▲12.2%)

-ケーブル製品分野において前年同期にあった大型案件が剥落。今年度は大型案件に乏しいものの、非大型案件の売上は前年度より増加しており、引き続き好環境が維持されている。

・営業利益 (前年同期は47百万円の営業利益)

-中計施策推進に伴う経費が抑えられた一方で、上記減収要因により減益。

○公表予想値

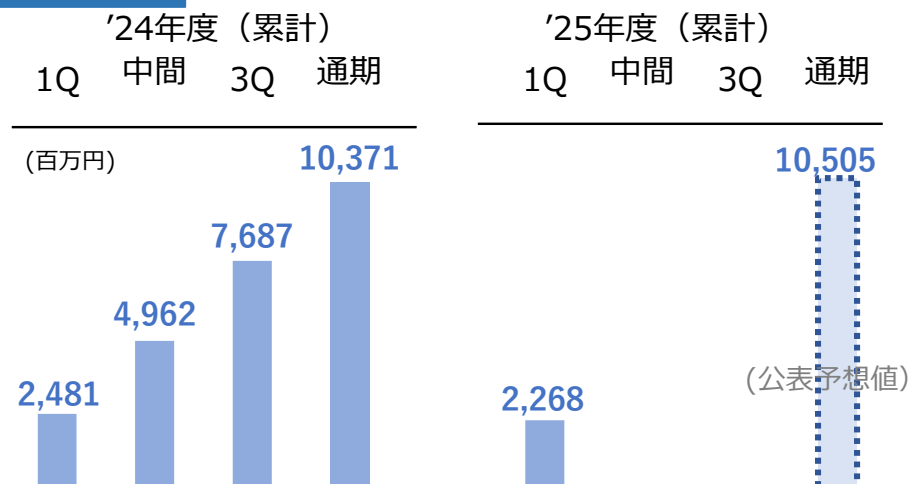
-大型案件の端境期となるも国土強靱化、高速道路リニューアル対応を中心に好環境は継続するため増収予想であるが、人件費の増加等により、減益を見込む。

～売上・利益ともに全体としてはまずまずの滑り出し

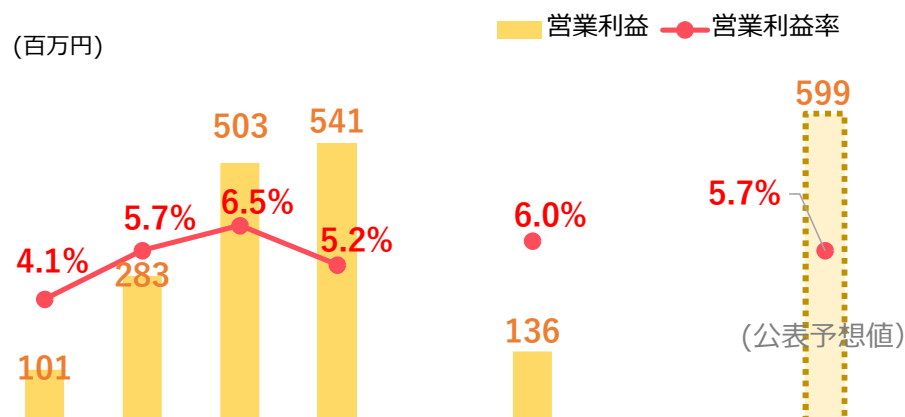
-ケーブル製品分野では橋梁補修関連が依然として工事の遅れが見られ、コンクリート製品分野も苦戦しているが、ケーブル製品分野のアンカー関連及び鉄鋼製品分野は順調に推移。大型案件に乏しい分今年度は下期偏重である中、全体として進捗は悪くない状況。

建築用資材の製造・販売事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収増益

・売上高（前年同期比▲8.6%）

-建築金物分野の内装関連は市場の需要回復が未だ見込めず、仮設建材関連も工事進捗は停滞気味である。鉄骨工事分野においても、鉄骨需要が減少するなか工事進捗の遅れもあり厳しい立ち上がり。

・営業利益（前年同期比34.9%）

-建築金物分野では売上は微減の中、選択と集中により利益は増加。
-鉄骨工事分野でも売上に苦戦する一方で案件ごとの利益率改善により増益。

○公表予想値

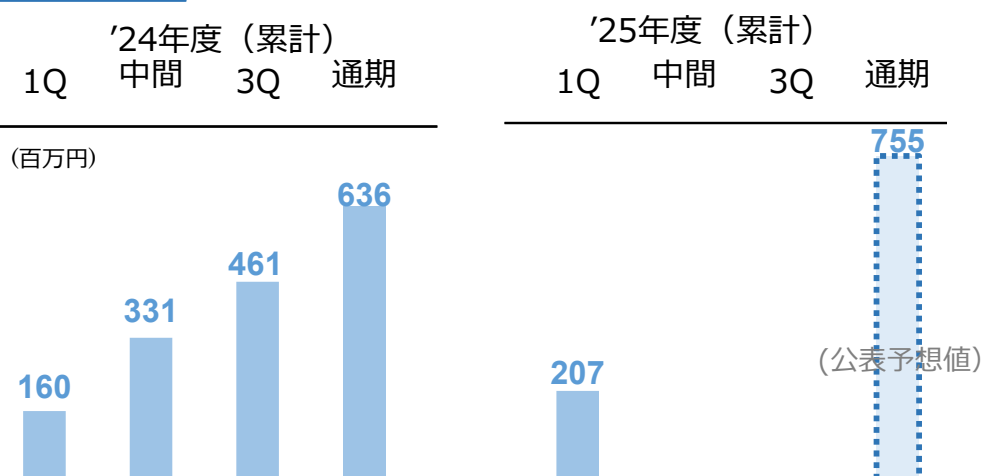
-首都圏を中心とした再開発需要へのアプローチ、大型案件の確実な受注に取り組み、価格転嫁および選別受注による利益確保によって増収増益予想。

～利益は好調、売上は今後案件確保に注力することで遅れを挽回

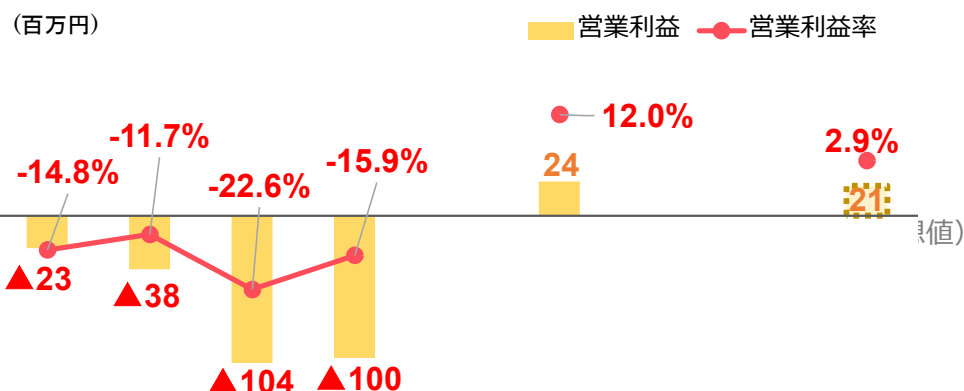
-建築金物分野では新規顧客、新たな販路の開拓により売上高の底上げを図る。

-鉄骨工事分野においても、受注案件の積み増しを継続。

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～増収増益

・売上高（前年同期比29.0%）

- 期初受注残を順調に消化し増収。

・営業利益（前年同期は23百万円の営業損失）

- 増収要因に加え、消化案件の利益率が比較的高く大幅増益。

○公表予想値

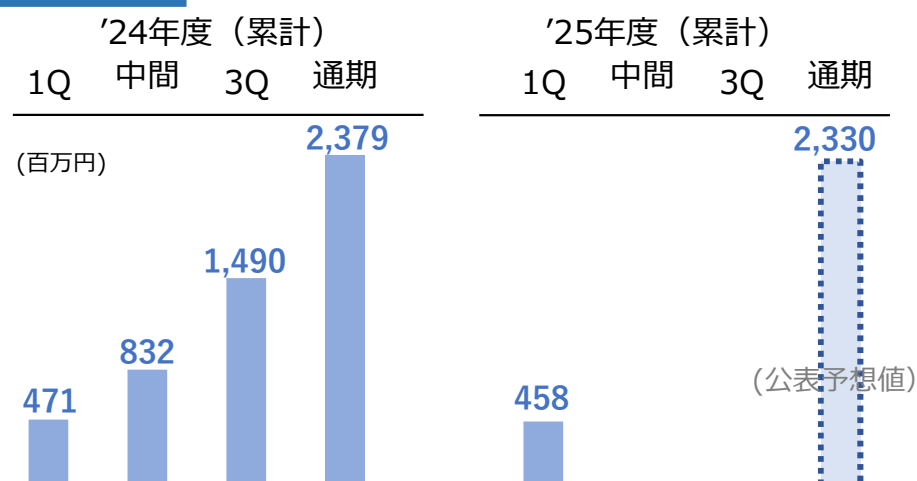
- JICA以外からの案件受注の増加や海外コンサルとの連携にて増収増益、黒字化の公表予想。

～堅調な出だし、着実な利益の積み上げを継続

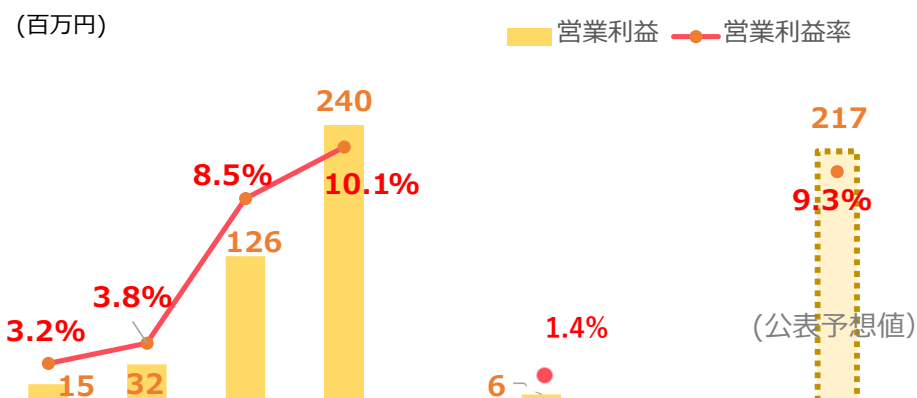
- 引き続き受注案件の安定した消化を継続。

- 外務省・海外援助機関の関連案件へのプロポーザルの拡充等、受注残の更なる積み上げに注力。

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高（前年同期比▲2.9%）

-国土強靱化等で引き続き好環境だが、工事進捗の遅れの影響により減収。

・営業利益（前年同期比▲56.8%）

-上記減収要因および案件の小規模化により利益率が低下したことで減益。

○公表予想値

-好環境は継続するものの、県等自治体案件の小型化により若干の減収減益の公表予想

～工事進捗遅れの影響があるも、今後挽回可能

-元受け受注率の増加を目指し、高利益率案件を確保することで達成を見込む

将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

